

TEL : 084-932-2345 (火~日曜の8:30~17:00)

✉: art@city.fukuyama.hiroshima.jp FAX: 084-932-2347

[illegible]

●ふくやま美術館ホームページ（下記URL）よりダウンロードしてください。



左側の **団体観覧のご案内** をクリック

- 小・中学校の先生が授業の一環として観覧する場合、事前に学校長から申請書を提出していただくと観覧料免除となります。（高校生以下の観覧料は無料）
- 申請書は、ふくやま美術館ホームページよりダウンロードしてください。

※展示室内の状況(混雑時)などによっては、ワークシートをつかった別の鑑賞を提案させていただくこともあります。
※お申し込み日程については、別紙の団体受入可能日をご覧ください。
※受入については、既に他団体の対応予約が入っている場合や、行事などによって日程を調整させていただく場合もあります。
※鑑賞方法については、『10歳の君へ ようこそ美術館プロジェクト』と、この鑑賞プログラムとは異なります。

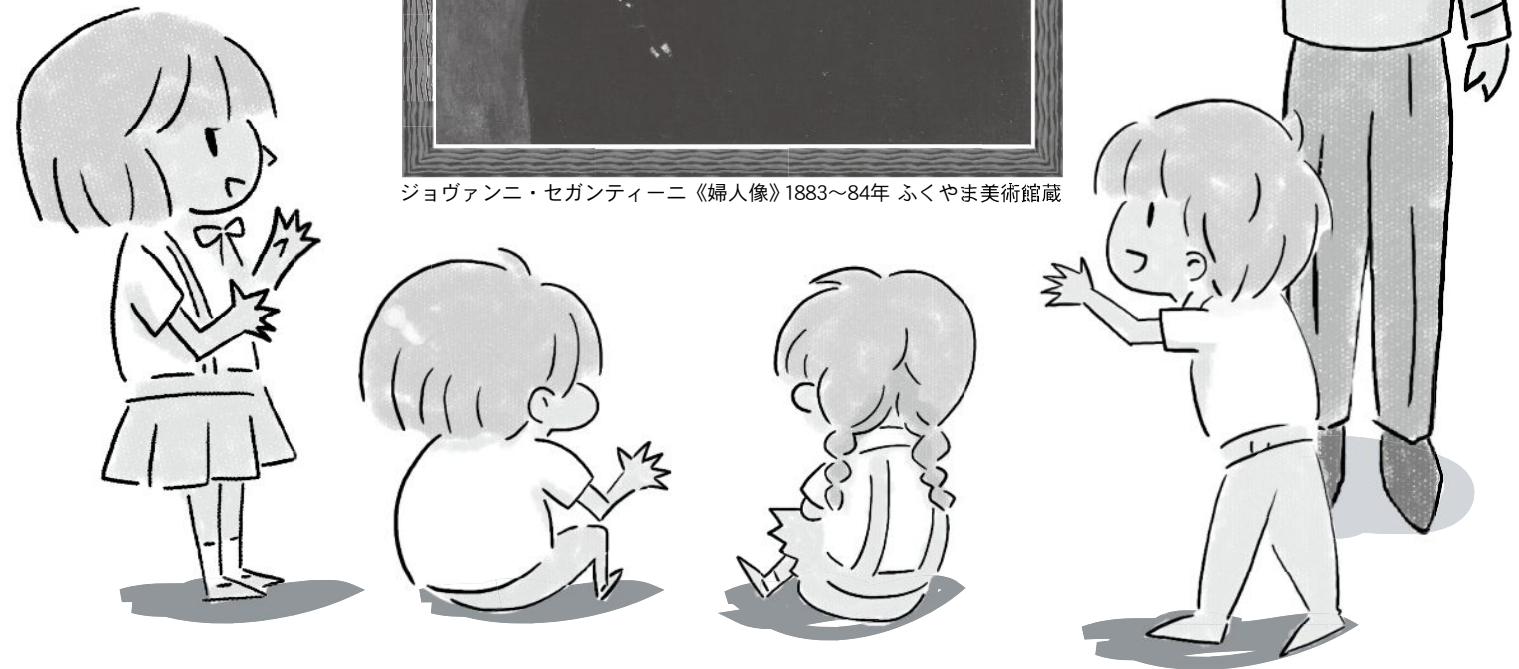
A detailed map of the area around the Fukuoka City Museum. The museum building is a large black rectangle labeled 'ふくやま美術館' (Fukuoka City Museum) and 'ふくやま市立美術館' (Fukuoka City Museum). To its left is the 'バス駐車場' (Bus Parking Lot) and '市営駐車場' (Municipal Parking Lot). To its right is the '福寿会館' (Fukushu Kaikan). Above the museum is the 'ふくやま文学館' (Fukuoka City Literature Museum). Below the museum is the 'ふくやま市立博物館' (Fukuoka City Museum) and '（県立歴史博物館）' (Prefectural History Museum). The map also shows the 'JR福山駅' (JR Fukuoka Station) and the '天浦屋' (Amiura). A legend in the top left corner identifies the symbols for the Fukuoka City Museum, Fukuoka City Literature Museum, Municipal Parking Lot, and Bus Stop. A compass rose in the top right corner indicates North (N). The map is labeled with 'セブンイレブン' (Seven-Eleven) and '福山 商業会議所' (Fukuoka City Chamber of Commerce).

- ・事前に「作品にはさわらない」ことを児童・生徒にお伝えください。

＜申込のご案内＞



ジョヴァンニ・セガンティーニ 《婦人像》1883～84年 ふくやま美術館蔵



FUKUYAMA MUSEUM OF ART

ふくやま美術館

広島県福山市西町三丁目4番3号 電話 084-932-2345 JR 福山駅福山城口（北口）から西へ400m



美術館で美術作品を鑑賞しましょう！

この鑑賞プログラムは、児童・生徒が作品を楽しく鑑賞する中で、「美術作品と向き合う心をはぐくんで欲しい」と願い、実施するものです。

学習指導要領の目標には、「造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」ことと明記されています。また鑑賞の指導については、「地域の美術館などを利用したり、連帯を図ったりする」ことが推奨されています。

作品との素敵な出会いが、児童・生徒に新たな「発見」や「感動体験」をもたらし、貴重な心の財産となるでしょう。



美術館には、どんな鑑賞プログラムがありますか？

1. 対話型の鑑賞（観察力・コミュニケーション力を高めるコース）

児童・生徒と、学芸員・ボランティアが対話を通じて、ひとつの作品をじっくり鑑賞していく方法です。この鑑賞方法では、児童・生徒がそれぞれ感じたことを考えて、言葉にすることを促します。作品を細かく見る観察力や思考力のほか、コミュニケーション能力の向上も図ることができます。

※実施時は、10名程度のグループに分かれて鑑賞します。

2. ガイド形式の鑑賞（知識・教養を深めるコース）

展示されている作品やその作家に関する説明を、学芸員やボランティアが行います。作品が制作された背景や、作者の人生を知ったうえで鑑賞すると、作品の異なる一面が見えてくることでしょう。児童・生徒の知識を深め、また造形の新たなレパートリーを増やしてくれる良い機会となるでしょう。

■実施場所：企画展示室、常設展示室、書道美術館

■対象：小学生・中学生

■所要時間：約30分～60分

3. 施設見学（美術館の役割を学ぶコース）

美術館に関する短時間の説明と、施設（バックヤード等）のご案内をします。

■実施場所：美術館・書道美術館 ■対象：小学生・中学生 ■所要時間：約30分

4. 屋外モニュメント

屋外を巡りながら、ふくやま美術館周辺のモニュメントを紹介します。身近なアートを発見するプログラムです。

■実施場所：屋外 ■対象：小学生・中学生 ■所要時間：約30分

※雨天の場合は、実施場所が変更になることもあります。



いつ美術館に行くのがいいですか？

案①

季節ごとに、テーマの違う様々な特別展があります。
目的に合わせてお選びください。

2025年度 特別展

期 間		内 容
春	4月5日(土) －6月8日(日) 前期：5月6日(火・休)まで 後期：5月8日(木)から	第20回世界バラ会議福山大会記念事業 Rose イメージの系譜 ルドゥーテからシャガール、北斎、芦雪、『ベルサイユのばら』まで 近世以降の西洋と日本における様々な芸術に表現されてきたバラのイメージをたどる、大規模なバラの美術展。ルドゥーテやシャガールといった西洋美術はもちろん、北斎や芦雪など日本の作品に加えて、「ベルサイユのばら」の原画、現代作家の作品まで、多様な展示品を通して、数百年にわたるバラのイメージを探ります。
	7月12日(土) －9月15日(月・祝)	アートであそぼう ブルーノ・ムナーリ展 イタリア・ミラノで生まれたブルーノ・ムナーリ(1907－1998)は、日本では絵本で知られるアーティスト、かつデザイナーですが、その作品は多岐にわたります。本展では、そうしたムナーリのさまざまな仕事を「絵画・グラフィック」、「彫刻・オブジェ」、「プロダクト」、「遊具・絵本」、「ワークショップ」と5つのテーマで展観します。見て、さわって、感じて、大人も子どももアートと楽しくあそぶ心をひらく、ムナーリの世界をのぞいてみませんか。
秋	10月4日(土) －12月7日(日) 前期：11月3日(月・祝)まで 後期：11月5日(水)から	東京藝術大学大学美術館名品展 美の殿堂への招待 東京藝術大学は、前身の東京美術学校時代から美術教育のため美術品収集に力を注ぎ、1999年に東京藝術大学大学美術館が開館しました。本展は、同美術館所蔵の近代美術作品を中心に、高橋由一《鮭》、狩野芳崖《悲母観音》(前期) など重要文化財をはじめ、日本画、洋画、彫刻、工芸など各分野から約120点を紹介します。
冬	2026年 1月24日(日) －3月29日(日)	生誕140周年 藤田嗣治 7つの情熱 「乳白色」の女性像で1920年代のパリを魅了し、独自のスタイルを確立した藤田嗣治。本展では、藤田研究の第一人者であるシルヴィー・ビュイッソン氏監修のもと、フランス各地に所蔵されている作品を中心に、藤田との関わりが深い日本人画家の作品を交えながら、7つのテーマに沿って画家の創作の源泉に迫ります。

案②

所蔵品展も合わせて鑑賞ください。

所蔵品展では、ピカソやマルク・シャガールをはじめ、日本近代を代表する画家・岸田劉生が愛娘を描いた《麗子十六歳之像》、イタリア未来派のジャコモ・バッラ《輪を持つ女の子》といった色彩豊かな作品を年間を通してご覧いただけます。

児童・生徒が成長する過程で、繰り返し見ることでできる美術館の所蔵品は、美術鑑賞教育に好適といえるでしょう。

※都合により展示されていない作品もあります。

2025年度 所蔵品展

期 間		内 容
《 春 季 》 4月3日(木)－6月29日(日)		ベストセクション －「今」見るふくやまの名品 当館コレクションの各ジャンルから、学芸員が選ぶ「名品」をご紹介します。誰もがうなずく著名な作家の優れた作品に加え、常日頃、作品と過ごす学芸員だからこそお伝えできる、さまざまな魅力を取り上げます。また、第3室では、小松安弘コレクションの名刀を展観します。
《 夏 季 》 7月4日(金)－9月23日(火・祝)		ブルーの世界 私たちの心を引きつけ、さまざまな感情を呼び起こす不思議な色、ブルー。開放感や安らぎ、時には憂鬱や孤独を象徴する色でもあります。多様な表情を持つブルーのグラデーションをお楽しみください。
《 秋 季 》 9月27日(土)－12月14日(日)		没後50年 金島桂華 －自然へのまなざし 金島桂華(1892－1974)は福山市神辺町湯野に生まれ、14歳の時大阪に出て日本画を学びはじめ、19歳で京都の竹内栖鳳の竹枝会に入門しました。26歳の時文展に初入選して以来、日展を主たる活動の場とし、ひたすら花や鳥など自然の中の生命の美しさを正攻法で描き続けました。本展は2024年に金島家より寄贈を受けた41点の作品と美術資料を中心に、桂華の画業を紹介します。
《 冬 季 》 2026年1月2日(金)－3月29日(日)		何も無いと思いきや…… (第3室：特集 高橋秀新収蔵品展) 一見すると「何も無い」ように思える作品が一堂に会します。「ただ真っ白なだけの作品に見えるけど、実は……」など、作品には仕掛けがたくさんあります。画像と実物の違いを感じること、作品の面白さを見つけていただくことを目指します。また、第3室では、高橋秀(1930－)の特集展示を行い、昨年寄贈された作品を中心にご紹介します。

※特別展・所蔵品展の会期・内容につきましては、都合により、急遽変更をさせていただく場合もあります。
最新情報はふくやま美術館ホームページなどでご確認ください。